

人と防災未来センター 令和2年度事業評価

評価基準（4段階評価）
 S：大変評価できる
 A：評価できる
 B：あまり評価できない
 F：評価できない

評価単位	評定	委員コメント
展示	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のせいでの来館者の減少はやむを得ない。 ・コロナ禍の最中において感染症の蔓延を防ぎ、来館者の安全を図る方策を模索している。 ・リモートでのオンライン来館者を期待するとともに、その努力もみられる。 ・来館者の多いことを期待するだけに、クラスターになることを避けるための努力は報われた。 ・されども、BOSAIサイエンスフィールドのゾーン名称の全てがカタカナであることは見識が問われるのではないか。
資料収集・保存	A	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の収集に際しては、人と物の移動を伴うから、コロナ禍に於いては低調になるのは止むを得ない。 ・収蔵庫ツアーのオンライン化は、今後ともオンラインの有用性を利用することで意義が深まる。これはコロナ禍の終焉後における有用性を示唆している。 ・年次報告書 P58(HP で公開されている防災に関する冊子のダウンロードと開架)は、冊子化の数量が示されていない。 ・各種の資料は一度毀損されると回復できないものもあり、十分すぎるほどの対応が望まれる。
実践的な防災研究と若手防災専門家の育成／災害対応の現地支援・現地調査	S	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍についての臨時レポートの発信は時宜を得ている。 ・自己評価にある、闇夜を照らすガイド役との自己評価は言い得て妙である。 ・また、研究が実践に活かされ、実践に基づく研究が行われている。 ・これが可能であるであることが「人防」の特徴であることを大いに活用することが、斯界全体に資することが大きい。 ・一方、主任研究員と研究員との成果における格差が大きい。 ・重点課題の研究成果においては、査読論文と口頭発表の差は大きく、この明示的表現が望まれる。合わせて 65 編では意味がない。
災害対策専門職員の育成	S	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に於いても、現状で起きていることを前提として、次年度以降の研修の在り方を模索している。 ・これが次なる大規模災害に対する方策の樹立に繋がる。 ・トップフォーラムは無条件に近い形で高い評価を受けてきたが、国の関係する諸機関との関わりや、それらへの働きかけも検討の対象とすることが必要である。
交流ネットワーク	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼうさい甲子園」は災害関係者の広い分野の専門家も参画しているのは良いが、応募数に対する受賞数が、一般的な表彰事業に比して多すぎるのではないか。応募者の 4 割が受賞している。 ・これは、今後の事業の継続に関して、授賞の価値を下げる怖れもある。 ・テーマにコロナ禍を入れると募集が増えたことを、他の災害要因との関係で考えるヒントになる。